

# 2023年度 学校評価報告書

対象期間： 2022年4月1日 ～ 2023年 3月31日

学校法人 センチュリー・カレッジ  
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー



# I. 2023年度 学校関係者評価委員会 開催記録・議事録

## 1. 日時及び場所：

- (1) 日時：2023年7月19日（水）18:30～20:00
- (2) 場所：専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 第3教室

## 2. 出席者

### (1) 学校関係者評価委員

- 松崎 充意（一般財団法人石川県予防医学協会 理事長）
- 酒井 安代（保護者）
- 長谷田 敦志（公立南砺中央病院 リハビリテーション室 主任）
- 田中 茉美（医療法人社団博友会 金沢西病院 作業療法士）
- 野倉 克利（医療法人積仁会 岡部病院 地域医療部 副部長）

### (2) 本校教職員（オブザーバー）

- 加藤 謙一（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）
- 山本 達也（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局長）
- 狩山 信生（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長兼副校長）
- 種本 美雪（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長兼副校長）
- 池嶋香澄美（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 副学科長）
- 竹内 佑（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 副学科長）
- 曾山 薫（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 教員）

## 3. 欠席者

なし

[ 敬称略 ]

## 4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員長挨拶
- (3) 2022年度 自己点検・評価 報告
- (4) 2022年度 決算報告
- (5) 2023年度 重点目標及び施策
- (6) 閉会

## 5. 配布資料（PDF）

- ・評価シート 2023年度 学校評価
- ・[資料 1] 学校概要
- ・[資料 2] 2022年度 決算報告書
- ・[資料 3] 2023年度 各委員会の重点目標及び施策

## 6. 議事録

- (1) 学校長挨拶
- (2) 学校関係者評価委員会 委員長挨拶
- (3) 学校関係者評価委員の紹介（自己点検・評価委員会 副委員長 曾山）

(4) 2022年度 自己点検・評価 報告

① 本校の取り組みについて (学科長兼副校長 種本)

- ・ 2022年度学校評価に基づく2023年度目標・計画ならびに取り組みの現況について報告
- ・ 学校評価の意見・質問に対する質疑応答

<授業参観について>

加藤) 授業参観等で親御さんに学校での様子を見ていただくことは重要な事であると考えています。もしご要望があれば、どのような形で授業参観等を行ってほしいか教えて下さい。

酒井委員) 小学校、中学校までは家庭で学校の話をする機会や授業参観も頻繁にありましたが、高校、専門学校ではどのようなことを学んでいるのか知ることが難しくなります。親としては学校の活動に興味を持っていますが、授業参観となると子供が嫌がる可能性もあるのですが、それでも学校の様子を知る機会があれば是非参加したいと思えます。

<臨床実習費用の支援について>

酒井委員) 臨床実習期間のアパート代について説明を頂きましたが、臨床実習費用の支援について詳細な情報があれば教えて頂けるとありがたいです。

種本) 学生の実態を調査している段階で具体的な提示はまだできませんが、費用を抑えることが理想だと考えていますので、引き続き検討を進めていく予定です。

加藤) 近隣にこれだけ病院があるのに何故遠方の実習施設に配置するのか疑問に思われると思いますが、石川県内も養成校が増え、近隣だけではまかなえない状況にあります。学校としても目が届く近くの施設が望ましいのですが、ご理解を頂けると幸いです。

② 学校評価の結果確認 (評価シート/自己点検・評価委員会 副委員長 曾山)

- ・ 自己点検・評価の結果の補足説明
- ・ 学校評価の結果の確認と質疑応答

<学校の特色について>

長谷田委員) 今年度新たに理学療法士の養成校が開設されました。この学校が生き残っていくために、修業年限が三年制であるだけでなく、「専門性の特化」についても考える必要があると思います。将来的には、理学療法士、作業療法士の供給が医療保険分野においては過剰となる可能性が考えられますが、そのような状況を見越して模索することが重要だと思います。

狩山) 修業年限三年制は本校の根幹であることに他ならないと思っていますが、それだけでなく、広い視野を持って、生き生きと学べる環境を提供することを重要視しています。本校には本人の怪我の経験から療法士を志す学生が多く在籍していますが、就職先に固定概念を持ちがちです。現在は、介護老人保健施設やジム等、療法士の勤務先の裾野が広がっていますし、起業する道もあります。こうした選択肢を卒業生や社会活動を通して示していくことが大切だと考えています。

長谷田委員) 作業療法士は就労支援や自動車運転支援など幅広い社会のニーズに対応しています。このような分野においても理学療法士が活躍できる場があることを伝えることは重要ではないかと思えます。また、他校では障がい者スポーツ指導員の資格など、理学療法士以外の資格も取得できることを特色として打ち出しているところもあります。「専門性の特化」とは何か

については難しいかもしれませんが、プラスアルファのものを検討することが大切だと思います。

加藤) 学習支援のために補習を行うなど学校側の対応を増やすことが、学生に負荷になり逆効果になる傾向が見られます。プラスアルファを設けることは慎重に検討する必要があります。まずは学生のモチベーションを維持しながら、充実した学びの環境を作りたいと考えています。

松崎委員) 退学者の問題や新しい分野への検討においても、若い世代の感性を活かすことが重要です。そこで、正課のカリキュラムとは別に特別講義を実施することが効果的だと思います。例えば、有名な外部の講師や若手で活躍している人を招いて、前・後期に各1～2回の講演をしてもらいます。学生たちが自ら奮起するような魅力的な話題を取り上げてもらい、楽しみながら興味を持ち、刺激を受ける機会を提供すると良いと思います。

加藤) 専門学校の小さい規模だからこそ他では実現できないようなことに取り組む必要がありますね。学業にとどまらず、学業以外のことでも特色を打ち出したアプローチを考えたいと思います。

(5) 2022年度 決算報告 (資料2/事務局長 山本)

(6) 2023年度 重点目標及び施策 (資料3/学科長兼副校長 種本)

- ・昨年度振り返りと今年度目標の補足説明
- ・委員会活動についての質疑応答

<重点目標「入学前課題の実施」「早期退学者(可能性)の抽出」について>

田中委員) 前年度の入学前課題から早期退学者の傾向が掴めていると説明がありましたが、具体的な対策とその効果を教えてください。

種本) 入学後に該当学生に対して声掛けや面談の回数を増やすという対策をしています。退学の意向が増える時期が年に何度かありますが、例年夏休み明けの秋頃に学生が変化するので、これから注意深く見守りたいと思っています。

田中委員) 夏休みを活用して他の経験をすることで、新たな選択肢が広がることがあります。特に病院以外の職場での経験を求める学生さんには、そういった環境や可能性を肯定的に紹介してみるのも良いと思います。先ほど学校の特色でも話題に上がりましたが、マーケティングを教えてみても良いのではないかと思います。マーケティングを学ぶことで新たな視点を得られるだけでなく、資格を取得した後に異なる分野で活躍することで、資格がより価値あるものになることに気付くこともできると思います。また、マーケティングを学べることを特色として学校の魅力を高めることに繋がるかもしれないと考えています。

曾山) 田中委員には昨年度より就労意識についてのご提案を頂いておりますので、今のご提案も就職支援の内容に織り交ぜて活かしていきたいと思っています。

<重点目標「学生の主体的学習を支援する」について>

野倉委員) 「主体的学習を支援する」という表現が使われていますが、私はこれが相反するような言葉だと感じました。まず、「やる気」というのはとても見えにくいものだと思います。実習生のお話を聞いていると、表出の仕方が分からない学生もいて、意欲が無いと思われることで、逆にやる気が失せてしまう学生もいるかもしれません。「や

る気」をキャッチし認めてあげることが一番大事なのだと思います。そうすることで「主体性」は支援しなくても、引き出せば出てくるのではとも思います。

・委員長より総括

松崎委員) 今年度は評価点数が一部下がった項目もありますが、過去から連続して全体のレベルが向上してきたのは、教職員のご尽力の成果だと考えています。

少子化や競争校の増加など、多くの課題に直面しており、進路についても幅広い分野への就職から起業家まで多様な選択肢があることを示しながら育成をしていかねばならない難しい時代です。今後も教育力を高め、学校運営をより良くするために、日々の活動にPDCAサイクルを回して改善活動に取り組み、教職員が一丸となって頑張ってください。

以上

(記録：橋本尚子)

## Ⅱ. 2022年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書

対象期間： 2022年4月1日 ～ 2023年3月31日

評 価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

1. 教育理念・目標						
自己点検・評価【項目】		前回	【評 価】	担当委員会	学校関係者評価【評 価 ・ 意 見】	
					評価(例2)	意見
1-(1)	学校の理念・育成人材像・教育目標は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.2	↗ 3.6	学 校	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念・目標とは、学生が卒業し社会人となって働く上で、職業理念の骨格を形成するものであるとも言えます。在学中にもしっかりと発信・周知をお願いしたいと思えます。</li> <li>・今後、職域の拡大が求められ、分野を問わず幅広く活躍できるような人材育成が必要と思われれます。</li> <li>・理念は定められており、あとは学生にどれだけ浸透されるかが問題かと思えます。</li> <li>・保護者との面談もあるといいと思えます。専門学校になると、学校に来る機会もなく、学校生活が見えにくいので。</li> </ul>
1-(2)	医療福祉業界の要望・意見等を踏まえた学校の将来構想を策定しているか	3.1	↗ 3.3	学 校		
1-(3)	学校の理念・育成人材像・教育目標などが学生・保護者等に周知されているか	3.2	↘ 3.1	学 校		
1-(4)	育成人材像・教育目標は、医療福祉業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.4	↘ 3.2	学 校		
【課 題】			【今後の改善方策】			
1-(1)(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの活躍の場が、いまだ医療(病院)のイメージが強い。就職支援の時に強く感じる。</li> <li>・理念などは定められており便覧やパンフレットに記載はあるが浸透していない、また学生、保護者への発信は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの紹介内容の見直し・更新が必要と考える。</li> <li>・メール発信や保護者説明会で昨今の医療福祉業界の動向についても伝えていく。</li> <li>・施設訪問時、非常勤講師来校時等、情報収集し、共有する学生の目につくところに明示する。</li> <li>・学期ごとに、全保護者に対し面談を設定し、希望者全員に対応する。</li> <li>・年度初めに、新装した学校パンフレットを送付する。</li> <li>・OSCEの模擬患者募集などを通し、学校の教育姿勢を示すとともに、来校の機会を作っていく。</li> <li>・教育理念・目標がどの程度教員、職員、学生、保護者に伝わっているのか確認する機会を設定する。まず教員、職員からその機会を創出する。</li> </ul>				
1-(2)(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療福祉業界の要望、ニーズを社会情勢の変化時に適宜把握する必要がある。</li> </ul>					
【成果・特記事項】						

1-(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への理解は新カリキュラムを通して、病院以外での活躍の場があることの理解が得られている。</li> <li>・理事長、校長から都度学生へ発信されている。</li> </ul>
1-(1)(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者、教育課程編成委員会で継続的に意見を聞き、学校運営に活かしている。</li> </ul>

## 2. 学校運営

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
2-(1)	医療福祉分野の職業教育を念頭においた運営方針・事業計画が策定されているか	3.2	→ 3.2	学 校	<b>3.2</b> ・学生満足度と教職員の満足度は両輪と捉え、双方とも高めていくべきだと考えています。その視点でデジタル化を推進し、より業務の効率化を進めていただきたい。 ・授業、実習施設への対応・学生の対応など教職員の皆様の仕事が多岐に渡り忙殺されている中で頑張っ学校運営はなされていると思います。今後、少子化が本校にどの程度影響していくのか少し心配があります。
2-(2)	意思決定機能、指示命令系統は組織機能図において明確化されているか	3.0	↘ 2.9	学 校	
2-(3)	前項(意思決定機能、指示命令系統)は有効に機能しているか	2.6	↗ 2.7	学 校	
2-(4)	就業規則は整備され、教職員が常に確認できるようになっているか	3.2	↗ 3.6	事 務 局	
2-(5)	人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.2	↗ 3.3	事 務 局	
2-(6)	学校運営に関する情報公開が適切になされているか	3.6	→ 3.6	自 己 評 価 委 員 会	
2-(7)	組織体制の整備、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.0	→ 3.0	事 務 局	
【課 題】			【今後の改善方策】		
2-(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の策定はされているかとは思われるが、いつでもすぐに見られる、もしくは見直せる状態にないと思われる。日々の業務に流されて見失う。</li> </ul>				
2-(3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定機能、指示命令系統について双方向からの評価・フィードバックがあれば、事由・事柄に対して「有効」であったか考える機会になる。</li> </ul>			
2-(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部、情報公開が滞っている。(21年度情報)</li> </ul>				
2-(7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報システム化等による業務の効率化は整えられつつあるが、転換期であるため掲示システムや Teams、成績管理システムなど一本化しておらず、一時的ではあるが業務の効率化にはなっていない。</li> <li>・学生の電子申請が可能となったため、学生へのサービス向上はしている一方、教員の業務が増えたこと、また内部申請書類も紙媒体が多く、業務の効率化が図られているとは言い難い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Teams を使った情報発信方法の見直しや、システムの一本化を図り業務の効率化につなげる。</li> <li>・内部申請書類の電子化を行う。</li> </ul>			
【 成果・特記事項 】					

2-(2)	・次年度に向けて一部職員の職務、職責などを見直す予定。
2-(7)	・学生の電子申請が可能となった。 ・Teams を活用し、全職員が情報発信、共有が出来ている。

3. 教育活動					
自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】	
3-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標に沿った教育課程(カリキュラム)が体系的に編成されているか	3.5	↘ 3.4	教育課程編成委員会	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な評価は前年度と比べてほぼ横ばいであるが、成果・特記事項に記載されているように、教職員の皆さんが教育活動を良くしようと努力されていることは評価できる。引き続き、ご尽力をお願いしたい。</li> <li>・実習を受け入れる側として感じるのは、実習形態が変化したことも影響していますが、どのくらいの学習の習熟度があるかが分かりにくいと感じています。</li> <li>・あまり現実的な話ではなく、難しいかと思いますが、教育を専門性に特化してしまう方法も一つかと思えます。</li> <li>・3年間で知識、技術を身につけなければならず大変だとは思いますが、高校までとは違い、専門的な勉強ばかりになるので、目標ややる気がないと続けていくことも難しくなると思います。先生方にも子供たちが興味をわくような授業の仕方などにも関心を持っていただけたら嬉しいです。</li> <li>・国家試験合格、実習生態度を見ても教育活動は充実していると思います。</li> <li>・授業と授業の空きコマがあるようですが、午前、午後に授業をまとめるなどできないのでしょうか？</li> </ul>
3-(2) 学科の修業年限に対応した教育到達レベルを明確し、学習時間の確保はされているか	3.5	↘ 3.4	教育課程編成委員会		
3-(3) 医療福祉分野の病院施設や団体との連携により、実践的な職業教育の視点にたった教育課程(カリキュラム)の編成・見直し等が行われているか	3.6	→ 3.6	教育課程編成委員会		
3-(4) 医療福祉分野の病院施設における実践的な職業教育(実習等)が教育課程(カリキュラム)において体系的に位置づけられているか	3.5	↘ 3.4	教育課程編成委員会		
3-(5) 実習や講義等を委託する場合、教育目標及び教育到達レベルを明確にしているか、情報共有を図っているか	3.5	→ 3.5	教務委員会		
3-(6) 授業評価の実施体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.8	↘ 3.7	教育課程編成委員会		
3-(7) 授業評価結果に基づき、目標設定および授業改善が行われているか	3.3	→ 3.3	教育課程編成委員会		
3-(8) 外部(卒業生、保護者、医療福祉分野の病院施設や団体、地域社会等)からの評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか(アンケート、訪問・会議によるヒアリング等)	3.4	↗ 3.5	自己評価委員会		
3-(9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.4	→ 3.4	教務委員会		
3-(10) 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	3.6	↘ 3.4	国家試験対策委員会		
3-(11) 学校の理念・育成人材像・教育目標の達成に向けて計画的に人材(専任教員・非常勤講師)を確保しているか	3.3	↘ 3.2	学校		
3-(12) 医療福祉分野の病院施設や団体との連携において、要件を備えた人材(非常勤講師)を確保しているか	3.6	→ 3.6	学校		
3-(13) 教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取り組み(講座・研修の受講、資格取得支援、各種学会・会議への参加等)はあるか	3.6	↘ 3.4	学校		



3-(14)	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる組織的な取り組み(講座・研修の受講、専門家による指導等)はあるか	3.2	→ 3.2	学校	
【課題】		【今後の改善方策】			
3-(5)	・実習形態の変更に伴い、学校でも学生の実習状況を把握しているので実習施設と情報共有を行うことで実習の進捗を支援する必要がある。	・実習施設との情報共有の方法・内容を整理する。			
3-(7)(13)(14)	・必要な人材の確保という点で、外部講師に対して学校からの講義に関する要望・講義評価を伝えるのが、授業改革の為に検討が必要。 ・教授力を高める為の研修・参加、講義の聴講をどのように継続するかが課題。 ・昨年度のアクティブラーニングの研修内容を多くの教員が実践していたが、今年は組織としての新たな取り組みが不十分であった。	・複数で担当する科目を設定し、講義聴講・進行についての意見交換を行うようにする。 ・教授力とともに自己学習、自己評価を促していく講義運営の手法も取り入れていく。			
3-(9)	・実習のスタイルも変わり、育成人材像、評価・判定基準が不明瞭になってきた印象がある。	・判定が難しい学生に関しては、過去の事例と照らし合わせて個別に判断する			
【成果・特記事項】					
3-(2)	・カリキュラムは体系化されてきているので、大きな変更は行わず一定期間継続し教育到達レベルを達成できているか評価する必要があると考える。				
3-(4)	・学校側の学内実習の内容の模索と施設側の理解と協力により、実習時間の調整や時期の移動など柔軟な対応ができていると思われる。				
3-(13)	・全体での勉強会や研修などが実施されている。 ・教員の半分以上が修士を取得している。				

## 4. 学修成果

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
4-(1) 就職率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.6	↘ 3.3	就職支援委員会	<b>3.4</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年では臨床現場から離れて独立するセラピストも多く、働き方が多様化していることもあり、希望があれば説明していくことも必要と思っています。</li> <li>・医療保険や介護保険分野以外の就職も必要な時代になってきていると思います。授業の一環として起業のノウハウなどを教えてみるのも面白いかと思います。</li> <li>・就職だけでなく大学などへの編入など学生個々に応じた対応が必要と感じます。</li> <li>・退学者は昨年多いように思いま</li> </ul>
4-(2) 資格取得率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.5	↘ 3.3	国家試験対策委員会	
4-(3) 退学率を把握し、その上で低減に向けた具体的な対策を実施しているか	3.2	↘ 2.9	教務委員会	
4-(4) 卒業生のキャリア形成(社会的な活躍や評価)を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	3.0	↘ 2.9	教育課程編成委員会	

					す。やる気と受験時の目標をもう少し受験の時に見極めることができればなと思います。 ・学生の皆さんに働くことの意義や楽しさを伝えていくことが、より必要な時代になってきたように考えます。学問としての勉強も大切ですが、外部講師や卒業生からの前向きな話を聴く機会を増やすことが、モチベーションのアップや学修成果にも繋がっていくものと思います。
【課題】			【今後の改善方策】		
4-(1)	・就労に対する目標を定められない学生が増えており、就職活動が進みにくい。	・1年次から就職に関する保護者説明会を開催し、就職について話し合う機会を設けてもらうよう働きかける。 ・本人の希望・国家試験勉強との両立の問題なども念頭に、学生個々の活動時期をあらかじめ整理することで、個別の指導を進めやすくする。			
4-(2)		・従来のやり方、視点を変えて打開策を検討する。			
4-(3)	・低減にむけた対策の実施にマンパワー不足を感じます。個別対応がしきれていないように感じます。 ・具体的な対策は講じているが、学校・学科としての取り組みになっていないように感じる。 ・学習面への不安からの退学意向が増えているように感じる。	・学習範囲や量は変えられないが、入学時より日々小範囲ずつ繰り返し確認する習慣化とオンオフの生活スタイルを確立できるよう介入する。			
【成果・特記事項】					
4-(1)	・オンラインでの就職ガイダンスを複数回できた。				
4-(2)	・学習ツールの試験運用・検証、導入に取り組んでいる。学生が活用していくための指導や効果判定を進めていく必要がある。				
4-(3)	・サークル活動の継続、「からだアップ・プロジェクト」の新設により、校内学習以外にも取り組める環境を整えている。 ・面談やサークル活動など退学抑止に努めている。				

## 5. 学生支援

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
5-(1) 学生の進路・就職に関する体制(運営組織、制度)は整備され、有効に機能しているか	3.6	→ 3.6	就職支援委員会	3.4 ・専門学校になると年齢層も幅広く、社会に出てから来る人や高校あがりの人もいる。なかなか相談しづらい生徒間での輪になるかも
5-(2) 学生相談に関する体制(運営組織、面談記録、定期的な実施)は整備されているか	3.4	↘ 3.3	事務局	

5-(3)	学生の経済的支援に関する体制(奨学金制度、減免制度)は整備され、有効に機能しているか	3.3	→	3.3	事務局	<p>しれない。アイデンティティの確立に悩む時期で、相談できる人や場を確保できるかというと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響で、心身のケアが必要な若者は増加傾向にあるように感じます。専門家の力もいただき、対象となる学生のケアに努め、併せて教職員の負担軽減にも注力いただければと思います。</li> <li>また、同窓会活動は、学生にも卒業生にも良い影響を与えと思うので、引き続きお願いしたい。</li> <li>・除雪のボランティアや踊り流しへの参加、リレーマラソンなどのイベントを通して学生間の縦横の交流が活発になるような支援をよろしくお願いします。</li> <li>・新聞等のメディアにも活動が掲載されており、学生のモチベーション向上にもなりそうですので継続して活動していただきたいです。</li> </ul>
5-(4)	学生の健康管理に関する体制(運営組織、健康診断の実施)は整備され、有効に機能しているか	3.6	↘	3.5	事務局	
5-(5)	学生主体の課外活動(学生会活動、ボランティア活動、クラブ活動等)を奨励・支援する体制はあるか	3.4	↘	3.3	学生会支援委員会	
5-(6)	前項(課外活動支援に関する組織体制)は有効に機能しているか	3.1	↗	3.2	学生会支援委員会	
5-(7)	学校生活指導・勉強指導への支援は行われているか	3.5	↗	3.6	教務委員会	
5-(8)	保護者へ学校情報の提供や面談を行い、適切に連携しているか(ホームページ、保護者報告会等)	3.2	↗	3.3	教務委員会	
5-(9)	卒業生のフォローアップ体制はあるか(卒業研修、同窓会組織、1年後訪問、ホームページ等)	3.2	↘	2.7	学校	
<b>【課題】</b>		<b>【今後の改善方策】</b>				
5-(2)	・学生相談については各学科教員、学生の心身のケアにおいては担任中心であり、学校として体制が整備されていない。担任負担が大きい。	・学生相談室を設置し専門家を配置することで、心身のケア(話を聞く)ができる職員や体制作りをする。学生も相談しやすい環境が整い、教員の負担も軽減するのではないかと思います。				
5-(3)	・独自の奨学金制度がない。	・独自の奨学金制度について検討をしていく。				
5-(5)(6)	・感染状況もあるためか、主体的に行動できる学生が少ない。 ・サークル活動については、学外実習が重なる時期など担当教員にかかる負担が大きく、活動機会が限られてしまう。	・教員からのきっかけ作り、クラス内・学科内・校内の雰囲気作り。 ・教職員全体で支援し、活動を活性化させていく。				
5-(8)	・就職・国家試験の説明会は毎年開催しているが、学生個人の保護者への連絡は成績や出席に問題がある場合に限る。保護者が求めている学校情報があれば把握する必要がある。	・機会があれば保護者アンケートの実施。				

5-(9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は同窓会活動（卒後研修）を行えなかった。</li> <li>行動制限があり、対面でのフォローアップが少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演や講義ではなく、相談会的な1時間程度のオンライン会を定期的に開催し、卒後連絡を取りやすい範囲にアナウンスし継続して行うことでつながりを持っていく。</li> <li>OSCEの評価者・模擬患者や、国家試験支援について卒業生に募集を行う。</li> <li>両学科で年間計画を策定する。対面、あるいはオンライン手法も使い、フォローアップを増やしたい。</li> <li>毎月の出席は10名程度と多くはなく、より情報発信をしていく必要があると考える。</li> </ul>
<b>【 成果・特記事項 】</b>		
5-(2)	・カウンセラーを導入予定。	
5-(5)(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>白山市の茶話会にボランティアで参加、他大学生との交流の場を設けた。</li> <li>「からだアッププロジェクト」が発足され、興味を持ったことに自主的に取り組める環境が整えられている。</li> </ul>	
5-(9)	・定期的に同窓会が卒後教育として年間を通して症例検討や症例発表を通じた活動ができた。	

## 6. 教育環境

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
6-(1)	学校施設・設備は定期的に管理・点検され教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.4	→ 3.4	備品管理委員会	<b>3.4</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書に関しては色々あり良かったと子供が言っています。医療は常に勉強で、進化していくものだと思っているので、実習使用の物品なども新しいもので教育していただけると嬉しいですが、お金がかかりますね。</li> <li>コロナが世界的に落ち着いてきたので、ドイツ・フェルカー校との交流もより活発にできると思います。学生に知見、そして視野を広げてもらうためにも積極的な交流をお願いいたします。</li> <li>専門図書の充実やソフト・ハードの充実させることで学習の機会が広がると感じます。更なる充実の方をよろしく願います。</li> </ul>
6-(2)	教育上必要な図書が系統的に整備されているか	3.5	→ 3.5	図書委員会	
6-(3)	実習施設や国内外の研修等は整備されているか	3.5	→ 3.5	学校	
6-(4)	防災・安全対策(非常時の避難、誘導対策面、危機管理マニュアルの周知)は整備されているか	3.5	↗ 3.6	事務局(庶務課)	
<b>【課題】</b>			<b>【今後の改善方策】</b>		
6-(1)	・パソコンの調子が悪く、授業開始が速やかにできなかったことがあった。		・使用可能なパソコンが複数台あると良い。		
6-(2)	・書籍の出版が多すぎて、更新も早いので、図書室への導入を提案しにくい。		・新刊情報を案内し、学生から蔵書の要望を聴取し購入図書の選出につな		

げる。

【 成果・特記事項 】

6-(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下2階にも書庫を整備し、必要な図書を探しやすくなっている。また専門書以外にも話題の書籍などが整備されている。大雨による被害などがあつたが現在は復旧している。</li> <li>・図書室に学生希望の一般書を購入し、図書委員を中心に読書を促すための広報活動を行った。</li> </ul>
6-(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ・フェルカー校とのオンライン交流を継続し、多くの学生が異文化、およびリハビリテーションの共通点や相違点について知見を深めた。学生には貴重な経験だと思う。</li> </ul>

7. 学生の受入募集

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
7-(1)	学生の募集活動において、教育成果・実績等は正確に伝えられているか	3.7	↘ 3.5	事務局 (入試課)	<p><b>3.2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生を巡り、ますます学校間での競争が激しくなっていく。そのためにも改善できることは可能であるものから早め実施していただきたい。また、成果・特記事項の入学直後の集中的な支援プログラムについては、是非今後も力を入れていただきたい。</li> <li>・近隣に新たに養成校が増えたことでかなり学生の募集に苦勞している状況にあるかと思ひます。本校への進学の特長について今一度のアピールは必要かと思ひます。</li> <li>・学費やその他の費用についての説明が早いうちから聞いている為、保護者としては今後3年間の費用についての計画が立てやすい。その件に関しては評価4です。しかし、やはり高額であり、少しでも下げていただけるとありがたいです。実習時のアパート代などの費用はもう少し何とかならないか検討してもらいたひです。</li> </ul>
7-(2)	入学志願者の問合せ・相談に対する体制が整備され、情報提供(育成人材像、資格、学費・教材費、選抜方法)は適正にされているか	3.8	↘ 3.5	事務局 (入試課)	
7-(3)	学納金は妥当なものとなっているか	3.3	↘ 2.9	事務局 (入試課)	
7-(4)	入学辞退者の授業料に関して適正な扱いを行っているか	3.8	↘ 3.6	事務局 (入試課)	
7-(5)	入学予定者への入学前課題等の学習指導を実施しているか	3.8	↘ 3.7	入試委員会	
7-(6)	入学予定者に対してオリエンテーションを実施し、学校生活のための支援をしているか	3.7	→ 3.7	入試委員会	
【課題】			【今後の改善方策】		
7-(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生数の減少・県内の他の学校が学科新設された中で、同分野他校と比較して学納金が高く、受験先の選択から外れる事が考えられる。</li> <li>・学納金以外の出費が学外での講義・実習でアパート代や交通費が大きい。</li> <li>・分納制度や併願者に対するの入学金別納制度がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学納金が上がった分、以外での出費負担を極力削除する。</li> <li>・分納制度や学校独自の奨学金制度などを検討する。</li> </ul>			

7-(5)	・教員負担が大きい。	・経費的な問題があるかもしれないが、外部委託する。
【 成果・特記事項 】		
7-(2)	・対面のみではなくリモートでの進学相談にも対応している。	
7-(6)	・新入生に対して入学直後に一定期間集中的な支援プログラム（オリエンテーション）を行ったことが、講義への受講態度のいろんな場面に反映されていて素晴らしい成果が出たように思う。	

8. 財務					
自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
8-(1)	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.0	↘ 2.7	事務局 (経理課)	3.0 ・将来の財務的なシミュレーションは大切であるので、是非お願いしたい。 ・少子化の影響はかなり受けていると感じています。今後の学校運営は難しいと思いますが乗り越えて頂きたいと感じています。 ・直接的に関わることはできないが、決算報告書で知ることができました。
8-(2)	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、また定期的に確認しているか	3.1	↘ 2.9	事務局 (経理課)	
8-(3)	財務について会計監査が適正に行われているか	3.5	↘ 3.3	事務局 (経理課)	
8-(4)	財務情報公開の体制を整備し、適正に運用しているか	3.4	↘ 3.2	事務局 (経理課)	
【課題】			【今後の改善方策】		
8-(1)	・入学者数と退学者数に影響を受けるため、中長期的に安定していると言 い難いと思います。 ・18歳人口減の他、競合校の設立などがあり先を見通しづらい状況にある。	・減収を見据えたシミュレーション（事業規模縮小）を行う。			
【 成果・特記事項 】					
8	特になし				

9. 法令等の遵守					
自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
9-(1)	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	3.6	↘ 3.3	事務局	3.4 ・法令等の遵守はしっかりされていると思います。ただ、課題に記載してあるように職員の意見等については必ずフィードバックすることが大切だと思います。そのことによつて、前向きな意見が多く出るようになり、結果的に組織がより強化されることに繋がると思います。
9-(2)	学生および職員の個人情報について閲覧権限等の設定がされ、個人情報保護の対策が講じられているか	3.3	↘ 2.9	事務局 (庶務課)	
9-(3)	文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)、決裁規程(文書処理規程)、公印管理規程が文書化されているか	3.4	→ 3.4	事務局 (庶務課)	
9-(4)	自己点検・評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.8	↘ 3.7	自己評価 委員会	

9-(5)	自己点検・評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.4	↘	3.3	自己評価委員会	・現状では、適正な学校運営がなされていると考えております。
9-(6)	自己点検・評価結果を公表しているか	3.8	→	3.8	自己評価委員会	
9-(7)	学校関係者評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.8	→	3.8	自己評価委員会	
9-(8)	学校関係者評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.3	↘	3.2	自己評価委員会	
9-(9)	学校関係者評価結果を公表しているか	3.9	↘	3.8	自己評価委員会	
【課題】			【今後の改善方策】			
9-(5)(8)	・自己点検・評価結果に基づき、どのような改善策に取り組んでいるのか周知されていない。		・各自が記載した内容を元に、職員の意見・考えに対してもフィードバックおこなう。			
【成果・特記事項】						
9-(6)~(9)	・各種ガイドラインに沿って評価・点検などを行いHPにて公開している。					

## 10. 社会貢献・地域貢献

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
10-(1) 学校の教育資源や施設を提供し、社会貢献・地域貢献を行っているか	3.2	↗ 3.4	事務局	<b>3.4</b> ・茶話会やソーシャルフットサルへの参加などが新聞記事などで取り上げられており一定程度の社会・地域貢献はなされていると感じています。 ・高齢化社会である為、機会があれば地域の場に出て、少しでも医療を受けずに元気に生活できる高齢者が増えるよう、理学、作業に携わる者として何かできると思います。 ・様々な取り組みをされていることは評価できます。ただ、個人に依存することがないよう、学校としての取り組み方について明確にした方が良くと思います。
10-(2) 地域に対する生涯学習事業(公開講座、教職員の出張講座)の提供や教育訓練(公共職業訓練を含む)の受託等を実施しているか	3.3	↗ 3.5	教員広報委員会	
【課題】			【今後の改善方策】	

10- (1)(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徐々に増えているとは思いますが、個人に依存している内容があり、学校としての取り組みはまだまだ少ないと思います。</li> <li>・地域の茶話会などに参加しているが学内に浸透していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が住む町会の活動に積極的に参加し、地域サロンで出張講座を頼まれるような関係性を作る。</li> <li>・学校としての取り組みにしていくには、どのように運営していくかを明確にして行っていく。</li> </ul>
【 成果・特記事項 】		
10-(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢市と「雪かきボランティア」の提携や茶話会（高齢者サロンへの学生参加・講座）の実施など十分に行われている。</li> <li>・学校施設を利用し、対面での研修会を再開できた。</li> </ul>	
10-(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢市より「共生社会推進事業者」の認定を受けている。</li> <li>・石川県内の小中学校での職業講話、高校への出張講座に積極的に参加している。</li> </ul>	